

令和3年12月28日(火)～令和4年1月4日(火)は、学校休校日です。



内部東小学校だより

自然を愛し、人間性豊かにたくましく生きる子どもの育成

四日市市立内部東小学校

令和3年12月23日

第12号



できることに、全力で

2学期が終了を迎えます。8月末の個別登校、9月のオンライン学習など、まさに「これまでにない」経験を多くした2学期でした。個別登校での送迎、オンライン学習期間中のご支援、その後の学校教育活動や各種行事、臨時休校等へのご理解・ご協力など、ご家庭の支えなしにはできなかったことばかりです。この2学期も多大なるご協力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。

感染症対策で『例年通り』が困難な中、「現在の状況の中でできることに全力で取り組もう」という姿勢で、日々の教育活動を行ってきました。

接続が安定しないオンライン学習では、Zoomがつながらなくても学習できるよう GoogleClassroom で教材を配信し、時にはご家庭にお邪魔して通信トラブルを解決しました。



1年生は焼いもに竹とんぼ、2年生はリース作りと、内部東小学校伝統となっている、うつべっ子はげまし隊の方にご協力いただいて行う活動を、感染症対策に配慮した上で例年通り実施しました。



3年生は、見学先の受け入れが難しい中、見学先と調整を重ね、社会見学を実施することができました。4年生は、地域防災の方にお世話になる防災教室に、防災食や救助袋体験など『例年以上』の内容を盛り込みました。



5年生は、一泊二日の自然教室が市内一斉に日帰りとなりました。それでも5年生児童が主体的に計画し、学校へ戻ってから運動場でキャンプファイヤー、翌日学校で野外炊事や学習の森での活動を行うなど、充実の内容となりました。



6年生は、修学旅行が県内となりましたが、伊勢志摩の魅力満喫する内容を行いました。さらに修学旅行で行けなかった京都に社会見学で行きました。現段階で京都まで社会見学に出かけた学校は、市内で内部東小学校だけです。

もちろん、日常の学習活動も、学び合いや児童が協力し合って行う活動など、オンラインではできない体験をし、充実感を味わえるよう、心がけてきました。どの活動も、教職員の努力と工夫だけでは実現しませんでした。保護者の皆様・地域の皆様のご協力の賜物だと、心より感謝申し上げます。

3学期も感染症の状況を見極めながら、年間予定になかった授業参観を計画するなど、現状の中でできることを実施していきたいと考えています。新学期もどうぞよろしくお願い申し上げます。

「子どもたちの誇り」と「地域の元気」に

内部地区は、地域の皆様による学校教育活動への協力が非常に手厚く、大変ありがたく思っています。ざっと思いつくだけでも、

内部学童見守り隊・・・児童の登下校の見守り
うつべっ子はげまし隊・・・焼き芋、リース作り、戦争を語る会、樹木剪定やタイヤペンキ塗り
ホタルの会、トンボの会・・・ホタル池、トンボ池の整備や児童の自然体験支援
グリーンホウライ・・・学習の森の整備や児童の自然体験支援
内部地区防災隊・・・防災教室や防災クラブの活動支援
内部地区米作りの会・・・児童の稲作体験支援
采女城跡保存会・・・采女城跡の保存や児童の歴史学習支援

など、実に多岐にわたります。

他にも、校外学習にコミュニティスクール委員の方がご協力いただいたり、3年生に昔の暮らしについてお話しいただいたりしており、先日の5年生自然教室の野外炊事のような、急遽計画した取り組みにも、たくさんの地域の方がお力添えくださいました。

学校ではこうした、地域の方にご協力いただいている活動を大切にしています。身近な地域の方の熱心な取り組みや温かさに触れたり、内部地区の魅力を発見したりする中で、子どもたちが「内部地区大好き」「内部の人たち大好き」になり、そのことが内部地区で育つ自分自身への誇りにもつながればと思います。

また、地域の方が学校教育活動にご協力いただくことで、子どもたちの反応に喜びを感じたり、日々取り組んでいる活動に改めてやりがいや価値を感じたりしていただければ、とも考えています。さらに、そういったことが地域コミュニティでの話題となり、内部地区全体が元気になれば、こんなに嬉しいことはありません。

折しも、12月21日(火)に采女城跡保存会の皆さんにお世話になって実施した6年生の学習が、中日新聞で紹介されました。⇒新聞に掲載された日には、朝から、地域の方に「内部東小の采女城跡の勉強、新聞で見ましたわ。いいですなあ」と、ご自身のことのように、嬉しそうにお声掛けいただきました。

学校教育活動が「子どもたちの誇り」と「地域の元気」につながる。

こんなことが実現すれば素敵だな、でもそれは、内部地区だからこそできる夢なのかも、と思いつきながら、今後も取り組みを進めます。

保存会員の説明を聞きながら采女城跡を見学する児童たち＝四日市市采女町で



采女城跡 戦いの様子思う

四日市・内部東小
6年生が見学会
四日市市内部東小学校の
6年生が二十一日、地元
の「采女城」跡を見学し、
歴史を学んだ。地元住民ら
による「采女城跡保存会」か
ら話を聞き、土塁や堀など
の跡を巡った。6年生約七
十人は、保存会の稲垣哲郎
さん(68)から城の構造や歴
史を聞いた。采女城は鎌倉
時代、一帯の「采女郷」で地
頭を務めた後藤氏によって
築かれた。丘陵地にある山
城で、二百五十以上の四方の範
囲に九カ所、建物があった
とみられる「郭」跡が見つ

かっている。落城の経緯に
は諸説あるが、一五六八年、
天下統一を目指す織田信長
の伊勢侵攻の一環で滅ぼさ
れたとの見方もある。その
際、城主だった後藤藤勝は
割腹し、娘の千奈美姫は井
戸に身を投げたという。
児童は、学校の近くにあ
る采女城跡まで歩いて探
検。急な斜面を登り、敵の
襲来から守る土塁や空堀、
井戸の跡を見学した。長嶺
虎晴君(こ)は「近くに立派
な城があったことにびっくり
した。当時はどんな城
で、どんな人がいたのか知
りたい」と話していた。
(片山さゆみ)